

37. 発達障害ナビポータルの使いやすさ、親しみやすさの向上に向けたウェブデザイン刷新と地域支援の中心的人材に向けた専門情報の提供体制の充実について

部門名 企画・情報部 発達障害情報・支援センター 山脇かおり、渡邊文人、与那城郁子、

泉浩平、石坂務、中林睦美、中澤将人、坂元理奈

「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」報告（平成30年3月）より、文部科学省、厚生労働省の下、国立特別支援教育総合研究所・発達障害教育推進センターと発達障害情報・支援センターは、発達障害者の全ライフステージを通じた切れ目ない支援の充実に資する情報提供の工夫、発達障害のある本人や家族等が活用しやすい情報提供のあり方等について検討を重ね、令和2年度に発達障害に関するポータルサイト「発達障害ナビポータル」（以下、「ナビポータル」という）を構築し、令和3年度より両センター共同で運用を開始した。本稿では、令和5年度に実施したナビポータルの使いやすさ、親しみやすさの向上のためのウェブデザイン刷新と、新たに開発した専門情報掲載ページ（以下「マイページ」という）について紹介する。

【ウェブデザイン刷新について】ナビポータルは、発達障害のある本人および家族等の当事者と、発達障害者支援に携わる支援者を利用対象者として想定している。ナビポータルのコンテンツの質や継続的な発展のための工夫等に関する協議の場として、外部有識者を委員とする発達障害ナビポータル編集委員会を組織している。令和4年7月に第1回委員会を開催し、親しみやすいデザイン、操作に戸惑わないメニューの工夫等について意見を仰いだ。トップページに利用者別の入口を設け、各ページのグローバルメニューを2段構成とし、収載する情報をユーザーが推測できるようデザインを刷新し、令和5年4月に公開した（図1）。デザイン刷新後の6か月間と刷新前の6か月間のアクセス状況を比較すると、表示回数は10.8%増加している。コンテンツの拡充等による影響もあるため、単純にウェブデザイン刷新による効果と捉える事は出来ないが、リピーター数が増加していると推定できる。また、ナビポータルと合わせて運用する SNS（Twitter、LINE、Facebook）のフォロワーのコメント等では「メニューが使いやすくなった」、「情報を探しやすく」等の好評を得ている。研修や会議等の業務における様々な機会を活用し、ナビポータルの一層の普及啓発を図りたい。

【マイページについて】特定の職種を受講対象とした研修会の収録映像や資料等、有益ではあるがウェブサイトでの一般公開が難しかった情報（以下、「専門情報コンテンツ」という）を、ユーザー登録等の所定の手続きを行うことで閲覧できる仕組みをマイページとして令和5年度に構築した。発達障害者支援センター、発達障害者地域支援マネジャー、巡回支援専門員、地域連携推進マネジャーなど、地域支援体制の中心的人材を利用対象とし、登録後はマイページへログインすることで専門情報コンテンツを閲覧できる（図2）。導入後間もないことから、まずは自治体等への利用に向けた普及啓発と、関係機関等の協力のもと専門情報コンテンツの充実を図りたい。



図1 「ウェブデザイン刷新後のトップページ（パソコン利用時とスマートフォン利用時）」



図2 「マイページ：専門情報コンテンツの表示イメージ」